

1 食を通じた健康づくりを推進します					
(1) 毎日朝食を食べます					
	具体的な取り組み	内 容	担当課等 実施主体	実績及び評価	次年度の計画
乳幼児期の 取り組み	1 「早寝早起き朝ごはん」運動の推進	1歳6か月児健診、3歳6か月健診時に、簡単にできる朝ごはんメニューをお知らせする。	保健福祉課	1歳6か月児健診、3歳6か月児健診において保護者100名に簡単朝ごはんメニューをお知らせした。保護者からはみそ玉を使ったみそ汁を毎朝準備するようになった、などの感想があった。	簡単朝ごはんメニューのほか、朝食の組み合わせポイント等について個別指導を行う。
		食生活改善推進員と連携して、くにみ幼稚園年長児を対象として「朝ごはんの大切さについて」食育教室を実施する。保護者には具体的な組み合わせについて食育だよりで啓発する。	保健福祉課 くにみ幼稚園	くにみ幼稚園年長児38名に食育教室を実施。保護者には簡単レシピ、組み合わせのポイント、早寝早起き朝ごはんカレンダーを配布した。 3月に実施したアンケート結果で、「ほとんど毎日食べる」は94.4%と前年度と比較して増加した。(H28年度93.1%)	朝食摂取率のさらなる向上のため年少児・年中児の保護者に食育だより等で啓発する。
	2 「早ね・早おき・朝ごはん運動」チャレンジ週間の実施	園児を対象として、1年に2回、「早ね・早おき・朝ごはん運動」チャレンジ週間を設定し、子どもたちが取り組めるよう保護者に対して啓発する。	くにみ幼稚園	チャレンジ週間にアンケートを実施したことから実態を把握でき、「早ね・早おき・朝ごはん」の習慣の大切さを保護者に周知できた。	アンケートの結果から食育教室との連携を図り、食生活や食事のマナー改善に繋げていく。
学童・思春期の 取り組み	3 「くにみっ子さわやかチェック」の実施	毎月第1・3水曜日の朝に、朝食を摂取してきたかどうかチェックシートに記入する。	国見小学校	今まで、朝起きれなくて朝食を摂取していなかった児童も、定期的を実施することにより、親に対して自分から声がけをし、摂取する児童もでている。	継続実施。
	4 「朝食について見直そう週間運動」の推進	毎年6月と11月に「朝食について見直そう週間運動」を実施する。養護教諭による校内放送や栄養教諭による講話を実施し、朝食の摂取を呼びかける。	国見小学校	実施週間はずれしたが、4年生に対して栄養教諭の講話。児童たちの食に対する意識も高まり、ただ食べるだけでなく、バランスの良い食事が摂取できている。また、週間運動の最終日には朝食の振りかえりを実施し、何を食べたのかを書かせることで、より児童の関心が高まっている。	継続実施。
		毎年6月と11月に「朝食について見直そう週間運動」を実施する。栄養教諭による校内放送や生徒会保健委員会ポスターを作成し、朝食の摂取を呼びかける。	県北中学校	実施週間中に朝食摂取についてアンケート調査した。6月は97%、11月は97.1%と若干上昇。福島県平均は96.5%で、朝食摂取の意識の強さが伺える。	継続実施。
5 朝食の摂取状況調査	16歳から19歳までの年代について、朝食の摂取状況を調査し、具体的な取り組みを検討する。	保健福祉課	16歳～19歳の方341名を対象に実施。回収率21.7%。「ほとんど毎日食べる」81.0%、「週に4～5日食べる」5.4%、「週に2～3日食べる」6.8%、「ほとんど食べない」6.8%。	今年度の調査結果を踏まえ、16歳～19歳の若い世代が食育に関心を持ち、主体的に食育に取り組めるよう普及啓発を進める。	

成人期・高齢期の取り組み	6 「早寝早起き朝ごはん」運動の推進<成人期・高齢期の取り組み>	広報くにみやもたんFM、国見町公式Twitter、Facebook等の活用のほか、健康推進員を通じて「早寝早起き朝ごはん」運動についての普及啓発を行う。	保健福祉課	健康推進員と連携して総合健診の受診録配布時に「早寝早起き朝ごはん」運動について普及啓発を行った。各世帯に「国見町健康ポイント事業」の台紙を配布し、朝食摂取の取り組みや食育についての理解にある程度つながったと思われる。 また、5月と7月はFacebook、6月は広報くにみに掲載した。	引き続きFacebook等の活用のほか健康推進員と連携して「早寝早起き朝ごはん」運動について普及啓発に取り組む。
		食生活改善推進員と連携して、「早寝早起き朝ごはん」運動について普及啓発を行う。	保健福祉課	6月16日街頭啓発、17日に簡単にできる朝ごはんの試食のイベントとして「朝ごはんを食べよう大作戦」を開催した。「朝ごはんを食べよう大作戦」でアンケートを実施。回答者のうち町民の回答率が13.5%と低かった。	イベント等を実施する際には町民に訴求効果のある開催場所等を検討しながら進める。
取町民組みみんなの	7 「食育月間」の取り組み	6月の「食育月間」に幼稚園や学校では、「早ね・早おき・朝ごはん」運動や「朝食について見直そう週間運動」に取り組む。また、食生活改善推進員と連携し、簡単にできる朝食の試食の機会を設けるなど、朝食の大切さについて普及啓発する。	保健福祉課	幼稚園、小学校、中学校でそれぞれ朝食の摂取について取り組んだ。 保健福祉課では6月16日街頭啓発、17日に簡単にできる朝ごはんの試食のイベントとして「朝ごはんを食べよう大作戦」を開催した。	「食育月間」の周知だけでなく、町民が朝食の摂取等実際に取り組むきっかけとなるよう普及啓発を図っていく。
(2) 栄養バランスに配慮した食生活を実践します					
	具体的な取り組み	内 容	担当課等実施主体	実績及び評価	次年度の計画
乳幼児期の取り組み	8 健診での栄養指導	1歳6か月健診、3歳6か月児健診の中でバランスの良い食事について学ぶ。	保健福祉課	1日の摂取量の目安とおやつについて個別指導、パンフレットを配布した。 保護者からは、清涼飲料水やお菓子に含まれる糖分などがわかり参考になった、などの感想があった。	バランスの良い食事のほか、子どもの食事の悩み等について個別相談を行い、保護者の不安解消を図る。
	9 イキイキ子育てクラブでの講話	乳幼児の保護者を対象として、「乳幼児期の食事の大切さ」について講話を実施する。	保健福祉課	いきいき子育てクラブ会員、親子9組を対象に「おやつを選ぶポイントと簡単にできる手作りおやつ」について講話を実施した。保護者からはおやつを選ぶときの参考になった、子どもと一緒におやつを作ってみた等の感想があった。	会員の月齢にあわせ、離乳食・幼児食について講話を行う。
	10 くにみ幼稚園食育教室	食生活改善推進と連携して、年中児・年長児を対象として3色食品群の働きについて学ぶ。	保健福祉課 くにみ幼稚園	赤・黄・緑の食べ物とその働きについて、食材カードを使用し、遊びながら実施した。実施後の子どもたちの姿として、給食の食材を赤・黄・緑に振り分けたり、苦手な食材にも挑戦する姿がみられるようになった。	継続した取り組みが必要なため給食時間を利用し、給食の食材を赤・黄・緑に振り分けるなど幼稚園と連携しながら取り組む。
	11 親子料理教室	小学生の親子を対象として主食・主菜・副菜をバランス良く摂取することを学ぶ。	保健福祉課 生涯学習課	12月26日、小学生とその保護者を対象として「冬休み親子クッキング教室」を開催。7組17名参加。 主食・主菜・副菜ランチョンマットを使用し、自分で作った料理の並べ方や塩分測定計により減塩について学び、日頃の食生活を見直すきっかけになった。	継続実施。

学童・思春期の取り組み	12 少年仲間づくり教室	小学生を対象とした少年仲間づくり教室の中でバランスの良い食事について学ぶ。	保健福祉課 生涯学習課	2月10日、少年仲間づくり教室生(4年生～6年生)24名参加。 「国見町食卓図鑑」を活用した調理実習、食べ物クイズにより食に関する知識を学んだ。	食生活改善推進員と連携し、継続して取り組む。
	13 食育専門家派遣事業	学年の希望により、「小学校へ行こう週間」期間中に栄養教諭が食育の授業を実施する。	国見小学校	期間中に栄養教諭が3年生の学年行事として実施。児童から、多くの質問等が寄せられた。	継続実施
	14 「くにみっ子マイランチ」の実施	学期に1～2回程度、給食のない日に発達段階に応じて弁当づくりに関わる日を設ける。	国見小学校	学校全体の授業時間等のバランスや弁当づくりが家庭に関わる部分が多いということを考え、今年度実施しなかった。	予定なし。
	15 家庭科での学習	中学1年生の家庭科の授業で、「食生活と栄養」と「献立作りと食品の選択」について学習する。	県北中学校	調理実習は、「肉」「魚」「やさい」をメインとした実習を3回行った。指導には、中学校の教員のほか給食センターの栄養教諭も加わり行われた。栄養教諭が入ることで、より深く学ぶことができた。	継続実施。
成人期・高齢期の取り組み	16 妊婦への栄養指導	妊婦の方を対象に、届出時にパンフレットを配布し、栄養バランスの良い食事の仕方について指導する。	保健福祉課	妊婦33名にパンフレットを配布。希望者には個別指導を実施した。	妊婦全員に妊娠中の食事について個別指導を行う。
	17 健康料理教室	食生活改善推進員と連携して、「減塩と野菜あと一皿の摂取」をテーマに調理実習を行う。	保健福祉課 生涯学習課	食生活改善推進員と連携して、6月に藤田駅前等で減塩と野菜摂取に関するチラシを配布、7月に開催したくにみ元気まつりでは、減塩方法と野菜350g当てクイズを実施した。 野菜350g当てクイズでは、生の野菜を使用し自ら体験することにより1日の摂取量について理解してもらうことができた。	食生活改善推進員と連携して、減塩や野菜摂取の重要性と1日の望ましい摂取量を理解してもらうため料理教室を開催する。
	18 食生活改善普及講習会	食生活改善推進員と連携して、いきいきサロン参加者に対し、健康や栄養バランスの良い食事をテーマにした料理教室や講話を実施する。	保健福祉課	10地区で開催し、延べ142名参加。 要介護の原因の1つであるロコモティブシンドロームをテーマに調理実習、講話、運動を実施した。その結果、ロコモ予防の運動を生活に取り入れる方が増えた。	平成30年度7地区開催予定。 健康寿命の延伸を図るため、引き続きロコモティブシンドローム予防をテーマに料理教室と運動を実施する。
	19 食育月間の取り組み	広報くにみやもたんFM、国見町公式Twitter、Facebook等の活用のほか、健康推進員を通じて「栄養バランスに配慮した食生活の実践」について普及啓発する。	保健福祉課	Facebookを活用して、10月、11月の「みんなで食べる国見の日」に合わせて「栄養バランスに配慮した食生活の実践」について普及啓発を行った。 また、栄養バランスに配慮した食生活の実践につなげるためのきっかけづくりとして「国見町健康ポイント事業」を広報やイベント等で紹介した。	引き続き広報くにみやもたんFM、Facebook等の活用のほか健康推進員と連携して取り組む。
		6月の「食育月間」に食生活改善推進員と連携して、「栄養バランスに配慮した食生活の実践」について普及啓発する。	保健福祉課	6月16日、17日の「朝ごはんを食べよう大作戦」に合わせて「栄養バランスに配慮した食生活の実践」につながるよう、1日350g以上の野菜摂取を促すポスターやお菓子や飲料に含まれる塩分や糖分を実際に見て理解してもらうよう食塩や砂糖をパネル展示した。	町民が「栄養バランスに配慮した食生活の実践」等に取り組むきっかけとなるよう普及啓発を図っていく。
	20 高齢者配食サービス事業	在宅のひとり暮らし高齢者等に対して、栄養バランスのとれた食事を定期的に提供する。	保健福祉課	概ね65歳以上のひとり暮らし高齢者、80歳以上の高齢者のみの世帯の方を対象に昼食を提供。平成29年度の月平均では、利用者50.9名に1,167食提供。ひとり暮らし高齢者等の食生活の改善、健康保持を図っている。(平成30年2月末現在)	継続実施。
21 高齢者の食事の摂取状況調査	ひとり暮らしや高齢者のみの世帯の方を対象として、バランスの良い食事を摂取しているか調査する。	保健福祉課	ひとり暮らしや高齢者のみの世帯の食生活の実態を把握するための調査として、どのような内容や方法が適切か検討するため今年度実施できなかった。	高齢者配食サービス事業申請時に回答してもらうアセスメント票を集計してひとり暮らし高齢者等の食生活の傾向について把握する。	

み成人期・高齢期の取り組み	22 栄養に関する講習会等の開催	成人学級や女性教室、あつかし料理クラブ等で健康や栄養バランスの良い食事をテーマにした料理教室や講話を実施する。	保健福祉課	・1月26日、熟年クラブ9名に低栄養予防について講話を実施。 ・高齢者いきいきサロン事業で管理栄養士による栄養教室を実施。10地区で76名が参加。 バランス良く何でも食べることは健康で元気に過ごすために大切であることなどの講話を行った。	各種団体から依頼があれば実施する。 高齢者いきいきサロンは継続して実施。
		成人学級や女性教室、あつかし料理クラブ等で健康や栄養バランスの良い食事をテーマにした料理教室や講話を実施する。	保健福祉課 生涯学習課	2月19日に男性料理教室を開催し、17名の方が参加。実習後主食、主菜、副菜をそろえたバランスの良い食事や1日の食事量の目安について講話を実施した。	実施について検討する。
(3) 適正体重に気をつけた食生活を実践します					
具体的な取り組み		内 容	担当課等 実施主体	実績及び評価	次年度の計画
み乳幼児期の取り組み	23 健診での保健指導	乳幼児健診の中で成長曲線に沿って個別指導を行う。	保健福祉課	乳幼児健診受診者全員に個別指導を行い、保護者の不安解消を図った。	継続実施。
	24 未就学児体力向上支援事業	子どもたちの肥満や解消や運動能力の向上を目的として専門家による体力測定や『遊び』を通した体力・運動能力の向上プログラムを実施する。	幼児教育課	4・5歳児を対象に体力測定2回と生活習慣に関するアンケートを実施。 アンケートでは、運動時間と睡眠時間が短く肥満傾向があることが分かり、専門家による運動教室を6回実施し、総合分析結果を個別にフィードバックした。	体力測定2回、運動教室7回と生活習慣アンケートを実施し、前回のデータと比較することで改善策が図られてくる。
学童・思春期の取り組み	25 「すくすくカード」の配付	肥満度30%以上の児童を対象に、長期休み前後の体重と休み中の生活チェックを記入する「すくすくカード」を配布する。	国見小学校	長期休み前に「すくすくカード」を渡し、休み明けに体重等を測定。長期休みでも、大きな体重の変化等はなかった。本人、家族ともに意識していたようだ。	継続実施。
	26 家庭科での学習	中学1年生の家庭科の授業で、「中学生に必要な栄養」について学習する。	県北中学校	栄養教諭がメインとなり、中学生に必要な栄養について講話が行われた。生徒からは、多くの質問が出され、自分たちの体に必要な栄養について学ぶことができた。	継続実施。
	27 「自分手帳」の活用	自分の健康状態や食習慣を記録する「自分手帳」を活用して、自分の体力や健康に関心を持ち、運動習慣や食習慣、生活習慣の改善に取り組む。	県北中学校	「自分手帳」を自分で記入することにより、自分の健康について意識を持つことができた。	継続実施。
み成人期・高齢期の取り組み	28 適正体重についての普及啓発	広報くみやもたんFM、国見町公式Twitter、Facebook等を活用して、適正体重についての普及啓発を行う。	保健福祉課	広報くみやもたん6月号で、町民1人1人が適正体重について考えてもらうようBMIの計算式を掲載した。	今年度は広報に掲載したのが1回のみだったので、来年度は広報やFacebook等に複数回掲載し、普及啓発を図っていく。
	29 特定保健指導の推進	特定保健指導により、適正な食事の実践など適正体重を意識した指導を行う。	保健福祉課	特定保健指導実施者：動機づけ支援40名、積極的支援3名。 対象者が健診結果から自らの健康状態を正しく理解し、生活習慣改善のための行動目標を自ら設定、実施できるよう支援した。	継続実施。

の成 取人 り期 組・高 み 齢 期	30 健康教室、食生活改善普及講習会の開催	適正体重の計算方法や適正体重を維持するための食事量について学ぶ。	保健福祉課	食生活改善普及講習会では、適正体重とBMIの計算方法、バランスの良い食事について説明、資料を配布した。男性料理教室では、1日の食事量の目安等について講話を実施した。アンケートの結果では、参加者全員が1日に必要なエネルギー量や食事量について理解できたと回答した。	引き続き、適正体重の計算方法や1日の食事の目安量などについて健康教室を開催する。
(4) 家庭や地域での共食を推進します					
	具体的な取り組み	内 容	担当課等 実施主体	実績及び評価	次年度の計画
家庭 や地 域で の共 食を 推 進す る取 り組 み	31 「みんなで食べる国見の日」の推進	毎月19日の「食育の日」を「みんなで食べる国見の日」と位置づけ、家庭での共食について普及啓発する。	保健福祉課	毎月19日前後にFacebookで「みんなで食べる国見の日」について掲載し、家庭での共食について普及啓発した。	引き続き広報やFacebookを活用して普及啓発に取り組む。今年度Facebookを活用したが、平均「いいね」数が12.3人と伸びなかったため記事や写真を工夫して掲載する。
	32 「早ね・早おき・朝ごはん運動」チャレンジ週間に合わせた取り組み	「早ね・早おき・朝ごはん運動」チャレンジ週間に合わせて家庭内での共食を啓発する。	くにみ幼稚園	アンケートから保護者の悩み、困りごと等を把握することができた。	アンケートの結果をもとに生活リズムや食生活に関する支援につなげる。
	33 「朝食について見直そう週間運動」に合わせた取り組み	「朝食について見直そう週間運動」に合わせて家庭内での共食を啓発する。	国見小学校	毎年7・12月に食育だよりを発行し、お便りを見ながら、家庭内でも話し合いを促している。	継続実施。
			県北中学校	週間運動中朝食調べを行う。6月は保護者と生徒対象の食育講座、11月は給食試食会を実施。保護者もただ給食を試食するのではなく、栄養教諭から説明を受けることにより、より内容を理解することができる。	継続実施。
	34 子ども食堂の支援	さまざまな家庭環境の子どもたちに栄養バランスの良い食事と楽しい食事の場を提供する活動を支援する。	保健福祉課	ボランティアグループくにみっこサポートチームが『放課後クッキングクラブ』を運営。保健福祉課ではくにみっこサポートチームに子どもの貧困対策や子ども食堂に関する情報を提供するなどの支援を行っている。	継続実施。
ボランティア			5月～3月までの年11回実施。11回その他、社会福祉協議会が主となる子ども食堂を実施している。多くの児童、保護者からは、子どもが好き嫌い無く食べるようになったなどの感想がある。	継続実施。	

(5) 歯の健康を保ち、よく噛んで味わって食べます					
	具体的な取り組み	内 容	担当課等 実施主体	実績及び評価	次年度の計画
乳 幼 児 期 の 取 り 組 み	35 歯科健康診査	1歳6か月児健診及び3歳6か月児健診で歯科健康診査を実施する。	保健福祉課	1歳6か月児健診48名、3歳6か月児健診49名 歯科健康診査を実施。うち1歳6か月児で1名、3歳6か月児で20名に虫歯があったため、保護者に正しい歯科保健の知識を持ってもらうよう指導した。	継続実施。
	36 歯科保健指導	9か月児健診、1歳6か月児健診、3歳6か月児健診で歯科衛生士による歯科保健指導を実施する。	保健福祉課	1歳6か月児健診及び3歳6か月児健診では年齢にあわせた歯ブラシを配布し、実際に子どもに歯ブラシを持たせ、年齢にあわせた仕上げ磨き方法を指導。 また、間食の習慣や歯磨きの状況など対象者にあわせた個別指導を実施。 9か月児健診38名、1歳6か月児健診48名、3歳6か月児健診49名。	継続実施。
	37 フッ化物ジェル の 配付	1歳6か月児健診でフッ化物ジェルを配布する。	保健福祉課	歯科保健指導時に配布。年齢に応じたフッ化物の濃度や使用量、日常的に使用したときの効果について指導。	継続実施。
	38 生え始め用の歯みがき剤の配付	赤ちゃん訪問時に生え始め用の歯みがき剤を配布する。	保健福祉課	「丈夫な歯のお話」のリーフレットと共に配布。乳歯が生え始める前の時期から強い歯と健康には深い関わりがあることを認識する機会となっている。今年度は25名に実施。	継続実施。
	39 健康キッズの広報掲載	3歳6か月児健診で虫歯のない子どもを広報くみに掲載する。	保健福祉課	今年度むし歯のなかった幼児29名を広報くみにで紹介。他の保護者にもむし歯の予防や歯と口の健康の意識づけとして実施。	継続実施。
	40 歯磨きの習慣づけ	保育所の2歳児で歯磨き及び保育士の仕上げ磨きを実施する。	藤田保育所	毎日、給食の後の歯磨きと保育士による仕上げ磨きを実施してきた。そのことにより、給食後の歯磨きの習慣が子どもたちに身につけてきている。	次年度も引き続き実施するとともに、家庭での歯磨きの実態調査を行い連携し「虫歯予防への取り組み」を行っていくことが出来るようにする。
	41 歯磨き指導	学校歯科医による食後の歯磨き指導を実施する。	くにも幼稚園	学校歯科医、歯科助手による染出しを行った。歯に付着した磨き残しが目に見えたことでより丁寧に歯磨きをする大切さを感じることができた。また、保護者に向けたフッ化物洗口についての説明会を行い、4・5歳児で実施した。	フッ化物洗口については、保護者の同意を得ながら引き続き実施する。
42 フッ化物洗口の実施<乳幼児期の取り組み>	町保健師と連携して、幼稚園の年中・年長児の希望者を対象として、週1回フッ化物洗口を実施する。	保健福祉課 くにも幼稚園	年長児39名及び年中児54名のうち希望者37名及び52名を対象として、毎週水曜日にフッ化物洗口を実施。全25回で延べ2,115人に実施した。 むし歯を予防するとともに歯と口の健康を意識するきっかけづくりとなっている。	継続実施。	
学 齢 期 の 取 り 組 み	43 フッ化物洗口の実施<学齢期の取り組み>	町保健師と連携して、小学生の希望者を対象として週1回フッ化物洗口を実施する。	保健福祉課 国見小学校	全校児童394名中希望者376名を対象として、毎週水曜日にフッ化物洗口を実施。全28回で延べ9,145人に実施した。 むし歯を予防するとともに歯と口の健康を意識するきっかけづくりとなっている。	継続実施。
	44 「くにもっ子むし歯ゼロ運動」の推進	各学年1時間ずつ、歯科衛生について学習する。 毎年3年生及び6年生を対象として学校歯科医らが歯みがき指導をする。	国見小学校	毎日の歯磨きを行っているが、学校歯科医らが歯みがき指導することにより、忘れがちな部分の歯磨き等再度気づきが行われるようになった。	継続実施。
	45 歯の衛生週間の取り組み	6月に保健委員会の生徒が歯みがきについて学習し、レポートにまとめ、全校生徒に啓発する。	県北中学校	6月に事業が詰まっており、今年度は「いいはのひ」に町の保健師が講話を実施。クラス毎に講話内容をまとめることで、より理解が得られた。まとめた内容については、クラス毎にはりだす。	継続実施。

成人期・高齢期の取り組み	46 成人歯科健康診査	40歳、50歳、60歳、70歳で歯科健康診査を実施する。	保健福祉課	対象者546名のうち受診者76名(受診率13.9%)。歯の喪失を予防し、食べる楽しみを高齢期まで享受することを目的として歯科健康診査を実施。受診率が前年度と比較して3ポイント上昇したが、10%台と低率であるため受診率を伸ばしていきたい。 (H28:対象者460名 受診者50名 受診率10.9%)	継続実施。
	47 8020運動の推進	8020運動を推進し、80歳になっても20本以上自分の歯を保っている方を表彰する。	保健福祉課	今年度は、13名(H28は5名)の方が8020を達成され、敬老会の席上で表彰した。高齢になっても20本以上自分の歯を保ちましょうという8020運動を推進した。	継続実施。
	48 歯科保健講話の開催	いきいきサロンで歯科保健に関する講話を開催する。	保健福祉課	高齢者いきいきサロン事業で歯科衛生士による高齢者の口腔機能向上についての講話会を実施。16地区で150名が参加。 自分の歯を鏡で見ながら「口の元気度チェック」にチェックを入れたり、オーラルフレイルを予防するため口の周りの筋力アップ体操などの講話を行った。	継続実施。

目標値に対する現状値の状況について

項目	計画策定時	現状値	目標値 (平成33年度)	目標達成率
朝食を毎日食べる子どもの割合	87.3%	90.6% ※1	90.0%	100.7%
主食・主菜・副菜をほとんど毎日そろえて食べる人の割合	66.7% (H25)	-	80.0%	-
適正体重の人の割合	64.8% (H25)	64.5% ※2	70.0%	92.1%
夕食を家族といっしょに食べる人の割合	児童・生徒 83.3%	89.3% ※3	90.0%	99.2%
	大人 77.6%	-	80.0%	-
3歳児でう蝕のない者の割合	70.8% (H27)	59.1% ※4	90.0%	65.6%
中学1年生の1人平均う歯数(永久歯)	1.11本	1.36本 ※5	0.8本	58.8%

※1 食に関するアンケート調査
(対象:国見小学校5年生及び県北中学校1年生～3年生)

※2 平成29年度特定健診
(BMI18.5未満 5.5%、18.5以上25.0未満 64.5%、25.0以上 30.0%)

※3 食に関するアンケート調査
(対象:国見小学校5年生及び県北中学校1年生～3年生)

※4 平成29年度3歳6か月児健診

※5 県北中学校歯科検診

2 子どもの食と農の教育の充実、食の生産と消費を通じて地域の活性化を図ります

(1) 幼少期から食と農の教育の充実を図ります

具体的な取り組み	内容	担当課等 実施主体	実績及び評価	次年度の計画
取食と農の教育の 49 国見町の旬の農産物を理解する取り組み	食育カレンダーを作成し、「やさいを育てよう」などの事業で保育所児や幼稚園児が栽培し、収穫した野菜を味わう体験を通して、国見町の旬の農産物の理解と「食」や「農」への関心を深める取り組みを進める。	藤田保育所	学校ボランティアの指導により、4種類の野菜を植え、5～9月までの期間、草取り、水やりなどの世話、収穫、食することを一緒に行ってきた。子どもと保育士の「野菜栽培への興味・関心の高まり」と「野菜を食べる意欲の育ち」がみられ、苦手な野菜が食べられるようになるなど食育に直接かわる貴重な体験ができた。	次年度も学校支援ボランティアを活用し、今年度の反省を活かして、更に「食」につながるよう計画を立てて取り組む。

食と農の教育の取り組み	49 国見町の旬の農産物を理解する取り組み	食育カレンダーを作成し、「やさいを育てよう」などの事業で保育所児や幼稚園児が栽培し、収穫した野菜を味わう体験を通して、国見町の旬の農産物の理解と「食」や「農」への関心を深める取り組みを進める。	くにみ幼稚園	町の管理栄養士による食育指導の中で「旬」の野菜を知ったり、年長児と用務員と一緒に野菜栽培を行い、食育と連携した「旬の野菜」を確認することができた。収穫した野菜については食べることはなくスタンプ等に利用した。	年長児を対象に管理栄養士による食育教室と連携した野菜栽培の実施。 (収穫した野菜を味わうことについては放射性物質の検査や保護者理解が必要)
	50 農業体験の実施	小学生が田植えや稲刈り、野菜づくりをし、収穫した農産物を味わうといった体験を通し、食や農業について理解を深める。	国見小学校	国見小学校の総合学習の一環として5年生による農業体験学習(春の田植と秋の稲刈り)を農家の指導の下実施した。(収穫した米で炊飯学習も実施した。)町の基幹産業である農業を自ら体験し、農業や農産物への理解を深めるとともに、食の恵みの豊かさや、大切さを感じ取ることができたと思われる。	平成29年度同様実施予定である。また、町で新設する「くにみ農業ビジネス訓練所」において体験研修(中学生以下の子供を持つ親子を対象)を実施する。
		少年仲間づくり教室の中で、町内の生産者の方と稲刈りなどの農業体験を実施する。	生涯学習課	10月9日、小坂アグリ株式会社協力のもと稲刈り体験を実施した。21名参加。午前中は稲刈り体験を行い、昼食には「天のつぶ」の試食会を行った。食後ボランティアの方から「稲とお米の話」と題して講話があった。 今回は刈り取りからまき方まで全て子どもたちが行き、達成感を得ることができたようだった。	実施予定。
		親子農業体験を実施し、子どもといっしょに保護者も「食」の大切さについて理解したり「農」への関心を深めたりする。	産業振興課	未実施。	来年度町で新設する「くにみ農業ビジネス訓練所」において体験研修(中学生以下の子供を持つ親子を対象)を実施する。

(2) 地産地消を推進します

具体的な取り組み	内 容	担当課等 実施主体	実績及び評価	次年度の計画
地産地消の取り組み	51 6次産業化の推進による地産地消の推進	まちづくり交流課	農産物加工施設MOMOCOをH28年度末に開所。また、加工製造に不可欠な食品衛生責任者養成講習会を町単独で開催(84名が受講、うち町内61名)その後、利用者説明会及び6次化セミナーを開催。29年度の活用は、まちづくり会社が惣菜・菓子・パンを製造し道の駅で販売。	6次化セミナーを継続的に開催し人材育成を進める。①利用希望者での試作、②加工から販売までの研修(食品衛生やマーケティング)、③6次化推進協議会の立上げ、④(仮称)食品加工組合の立上げ ⇒ 道の駅での販売実績を作る
	52 学校給食を活用した地産地消の推進	給食センター	国見町の学校給食における町内農産物の使用割合は、今年度21.4%となり、現状値5.4%から大幅に向上した。道の駅出荷組合等から町内産野菜の供給ルートが構築されたことにより数値が向上した。	引き続き、道の駅出荷組合や給食センター納品組合(町商工会)、JAうめ〜べ等と連携を図りながら地産地消の推進に取り組み、目標値達成に向けて取り組む。

地産地消の取り組み	53 食に関する情報発信	広報くにみや町のホームページ、TwitterやFacebookの活用、また道の駅国見を拠点として、食に関する情報を発信し、地産地消を推進する。	まちづくり交流課	twitter投稿47本、Facebook投稿27本※告知や報告を含む SNSを活用してのPRはしているが、『食に関する』について具体的に絞り込んでいない。また、出せば良いとのレベルで、行動喚起までに至っていない。SNSのフォロワーを増やす努力が必須。	29年度同様にPRをしていく。 ただし、誰に、何を、届けて(どう変えたいのか)について、キチンとした目標やターゲットの設定が必要であり課題である。
	54 国見町の食文化の継承による地産地消の推進	国見町の食材を使って、家庭や地域で受け継がれてきた家庭料理や行事食などを道の駅レストランや学校給食等に取り入れ、子どもから大人まで広めていくことで、町の地産地消を推進する。	給食センター	学校給食では毎月19日の「みんなで食べる国見の日」に家庭や地域で受け継がれてきた家庭料理を味わう機会となり、子どものうちから地産地消に取り組んでいる。	継続実施。

目標値に対する現状値の状況について

項目	計画策定時	現状値	目標値 (平成33年度)	目標達成率
農業に関心を持つ子どもの割合	-	63.5% ※6	50.0%	127.0%
道の駅国見での6次化商品販売額	-	6,947千円 ※7	20,000千円	34.7%
学校給食の町内農産物活用の割合	5.4% (H27)	21.4% ※8	30.0%	71.3%

※6 食に関するアンケート調査
(対象: 国見小学校5年生及び県北中学校1年生～3年生)

※7 道の駅国見での販売実績(平成29年12月末現在)

※8 学校給食における福島県産物活用状況調査

3 国見町の食文化を継承します

具体的な取り組み	内容	担当課等 実施主体	実績及び評価	次年度の計画
国見町の食を食べ	55 「みんなで食べる国見の日」の推進	給食センター	毎月19日(食育の日、みんなで食べる国見の日)には、国見町食卓図鑑のメニューを実際に学校給食で提供することができた。家庭や地域で受け継がれてきた家庭料理を学校給食でも味わう機会となり、国見町の食文化を普及啓発することができた。	引き続き、国見町食卓図鑑のメニューを学校給食で提供していくことで、国見町の食文化の普及啓発に努める。
	56 学校給食の活用			
国見町の食を学ぶ・伝える取り組み	57 親子料理教室の開催	保健福祉課 生涯学習課	12月26日、小学生とその保護者を対象として「冬休み親子クッキング教室」を開催。7組17名参加。 「国見町食卓図鑑」の中からひきな炒り、けんちん汁を調理した。アンケート結果では、参加者全員が自宅でも作ってみたいと回答した。	「国見町食卓図鑑」を活用し、継続して取り組む。
	58 若者向け料理教室の開催	保健福祉課	いっぷくの会(塚野目地区)の皆さんを講師に「くにみの母ちゃん料理教室」を開催。子育て中のお母さん7名と子ども12名が参加。「国見町食卓図鑑」に掲載されているすいとん、ひきな炒り、おからと豆のサラダを実習した。 地元食材を使い、実際に調理して食べるといった体験を通して、国見町の食文化を再認識し、国見町の家庭料理について学ぶことができた。	次年度も国見のお母さん方を講師として実施する。 また、高校生や大学生などの若者にも参加してもらえるよう開催時期の検討やTwitter、Facebook等によりPRしていく。
59 国見の家庭料理・行事食づくり体験	小学校の総合的な学習の時間で、笹巻づくりやいかにんじんづくりを体験する。	国見小学校	婦人会の方にボランティアとして入っていただき、笹まきづくりを実際に体験。いかにんじん、ひきな炒りなど家庭や地域で受け継がれてきた家庭料理を頂きました。なかなか一般の家庭でも作る機会もないので、良い経験になりました。	継続実施。

国見町の食を学ぶ・伝える取り組み	60 家庭科での学習	中学校の家庭科の授業で「調理と食文化」について学習し、国見町の食材を使った料理を考える。	県北中学校	夏休みの課題として、国見町の食材を使った朝食を考え、実際に調理した。実際に調理する事で、生きた食育となった。	継続実施。
	61 1食分メニューの募集	給食センターで中学生から国見町の食材を使った1食分メニューを募集する。	給食センター	県北中学校の生徒を対象に、国見町の食材を使った1食分のメニュー募集を行った。応募の中から2点を選抜して、2月7日と同9日の学校給食で実際に提供を行った。	引き続き、1食分のメニュー募集を行う。
	62 地元の豊かな食を再認識する取り組み	地元の食の豊かさを地元の住民が再認識し、それを大事に守っていくことを意識づけする機会として、地元の食の良さについて学ぶ場を積極的に設け、また道の駅等を活用し、行事食の体験イベント等を実施する。	まちづくり交流課	くにみしゅらん、女性応援団ツアーなどのモニターツアーを実施する中で、地元の食を地元のお母さんグループに依頼。交流会にて首都圏の女性から高い評価を得た。これらの取組みで、地元の食に自信をもってもらうことに繋がってきている。	くにみしゅらんなどのモニターツアーは少なくなるが、道の駅を活用して国見の食や歴史をパッケージした取り組みを継続することで、自信と誇りを持ちながら、自ら提供できる機会の創出に向けて支援する。
	63 国見町の食文化に関する情報発信	広報くにみや町のホームページ、TwitterやFacebookを活用して、国見町の食文化に関する情報を発信する。	保健福祉課	Facebookを活用して、国見町の家や地域で受け継がれてきた家庭料理を次世代に伝えるため実施した「くにみ母ちゃん料理教室」の取り組みを紹介し、国見町の食文化に関する情報を発信した。	引き続き広報やSNSを活用して、町の取り組みを紹介するなど国見町の食文化に関する情報を発信する。
	64 道の駅国見でのメニュー化	国見町の家や地域で受け継がれてきた家庭料理を道の駅国見でメニュー化し、利用者に国見町の食を発信する。	まちづくり交流課	開業から3ヶ月の7月末に「桃花亭」でアンケート実施。「地元産野菜」を使用したメニューの要望が大きい。9月より本格的にビュッフェ展開、食卓図鑑をヒントにしたメニューも提供される。家庭料理そのものではないが、国見産の食材を使用したメニューが充実。料理教室も実施。	道の駅指定管理者である「国見まちづくり株式会社」と連携し、国見産の食材活用と食文化の継承に努める。また、料理教室を引き続き開催する。
	65 「給食だより」の発行	国見町の食に関するおたよりを発行して、児童生徒や保護者へ国見町の食文化を啓発する。	給食センター	毎月の給食献立と合わせて、園児・児童・生徒へ配布し、食卓図鑑や給食人気メニューのレシピ紹介や、給食の歴史、生活習慣の話を掲載するなど、食文化の啓発を行った。	引き続き、「給食だより」の発行を行う。

目標値に対する現状値の状況について

項目	計画策定時	現状値	目標値 (平成33年度)	目標達成率
国見町の食材を使い、家庭や地域で受け継がれてきた家庭料理を1週間に2日以上食べている人の割合	-	-	30.0%	-